

MEIKAI

明海大学

浦安キャンパス

同窓会会報

編集/会報発行担当
発行/浦安キャンパス同窓会
URL <http://www.meikai.com/>

「価値ある同窓会へ」

主役は皆様です

明海大学浦安キャンパス同窓会

会長 金子 裕介



明海大学浦安キャンパス同窓会が1992年3月に組織されて、本年で12年が経過しました。皆様と明海大学、明海大

「評価の時代」と 同窓会への期待

明海大学
学長 高倉 翔



現代は「評価の時代」ともいわれます。70年代以降の《量の時代》から《質の時代》への転換を前提に、あらゆる対

学浦安キャンパス教育後援会のご協力により、今まで成長できたことを心より感謝致しております。さて、世界のあらゆる環境が変化しているこの時代、同窓会として真の意味で成長して行くためには、変化し続けることがとても重要です。同窓会とは、こういう物だ、などの固定概念や既存概念を取り払い、私たちの持っているネットワークという力をフルに活用し、変化を生み出したいと思っています。それには、今まで以上にネットワークを強固なものにする必要があります。昨年からは、始めています地区懇談会やWeb改革にさらに力を注ぐことが、組織の活性化やネットワークの構築に結び付くと信じております。これからも皆様にとって価値のあると感じていただける同窓会にしていきたいと思っております。

象の「質」が評価されその結果により対象の「価値」が決定され、さらに、対象の「存続」が問われる時代となりました。大学も例外ではありません。

同窓生の皆様には、先刻ご承知のとおり、明海大学を含めて、日本の大学は、今、その存亡をかけて、「大学大競争」、さらには、「大学淘汰」の荒波に翻弄されております。わが明海大学は、この荒波を力強く乗り切り、さらなる発展の礎を磐石にするための施策を、諸大学に先駆けて具体的かつ強力に展開しております。このような状況のなかで、大学の「入口」と「出口」の管理、とくに「出口」の管理が重要な課題とされております。しかし、最も大切なことは、「入口」から「出口」に至る「過程」の管理、つまり、より適切なカリキュラムを編成して、

最後に、主役は、皆様です。たくさんのご意見やご希望を同窓会へ寄せてくださることを心より望んでおります。



《より良質の「教育サービスを提供すること」でございます。》

要するに、「評価」されるべき重要なことからは、①卒業（修了）に際しての「付加価値」と「職業への接続」（就職）の実績、それに、②究極的には《卒業生⇨同窓生の「活動実績」》といえます。これこそ、「出口」管理の内実でしょう。私共は、国籍や氏名は希望によって変えることができます。しかし、明海大学の卒業生⇨同窓生であることは変えられません。それだけに、「評価の時代」における明海大学の地位を確固たるものにするためには、同窓生のご活躍と、同窓生からの率直なご提言が欠かせません。

母校、《明海大学の発展を支える大勢力としての同窓会》の一層の活躍を期待し、かつ、確信しております。



卒業生のネットワーク深めた1日 2003年度浦安キャンパス 同窓会パーティー

2003.11.3



小泉允罔副学長

7回目となる今年も、現役のフリーアナウンサー河田京子さん（3期生・中国語学科）が、司会・進行を担当。所用のために欠席となってしまった金子会長に代わって、鮫島伸一副会長が「同窓会パーティーも7回目。卒業生が増えるに従って、年々にぎやかになっていきます。今日は一人でも多くの卒業生と交流して、同窓会のネットワークを広げてください」と開会の言葉を述べた。



成瀬隆副学長

続いて成瀬隆副学長が「みなさんの元気な顔を見ると、昔のことを思い出します。卒業生の活躍が大学の評価につながります。後輩のためにも、がんばっ



花澤健太郎現学友会会長

「懐かしい人に会えました」「初めて同窓会に来ました。たくさん参加しているのびびくりしました。知っている顔や懐かしい先生に会えてうれしかったです」



鮫島伸一副会長

「懐かしい人に会えました」「初めて同窓会に来ました。たくさん参加しているのびびくりしました。知っている顔や懐かしい先生に会えてうれしかったです」

「懐かしい人に会えました」「初めて同窓会に来ました。たくさん参加しているのびびくりしました。知っている顔や懐かしい先生に会えてうれしかったです」

「懐かしい人に会えました」「初めて同窓会に来ました。たくさん参加しているのびびくりしました。知っている顔や懐かしい先生に会えてうれしかったです」

「懐かしい人に会えました」「初めて同窓会に来ました。たくさん参加しているのびびくりしました。知っている顔や懐かしい先生に会えてうれしかったです」



司会の河田京子さん

参加者に聞きました

●懐かしい人に会えました

「初めて同窓会に来ました。たくさん参加しているのびびくりしました。知っている顔や懐かしい先生に会えてうれしかったです」

●明海大が立派になったよ

「新しい立派な図書館ができていてびっくりしました。今までの図書館はどうなったの？」

「明海大学が大きく、立派になったよね」

「ぼくが大学に通っていた頃は京葉線もなかったし、周辺の住宅も少なかったのに。久しぶりにキャンパスに来て隔世の感があります。自分の基礎をつくってくれた明海大学を大事にしたいです」

●みんな変わってないね

「先生に会えてうれしかった。ぜんぜん変わっていません。分りました」

「君たちが卒業した後、いろいろあったんだよ」

「先生と生徒です」(すみません、誰が先生?)

「少人数でやる科目だったから、授業をとってくれた学生のことは比較的覚えていますよ。CADやったの覚えてるか?」

「すみません、忘れました」

「同じクラスでした。3期生です。みんな変わっていきなかつたので、すぐわかりました」

「おまえは変わったよな、髪が…」

「クラス担任だったので、先生のことよく覚えています」

「みんなきれいになったよね」

●先生に会いたかった
「ゼミの先生に会うのを楽しみにしていたのに、来ていなくてちょっと残念。でも、学部長とこんなに親しく話せて感激です」

●来年も参加しようよ

「福島から参加です。もちろん毎年来ていますよ」

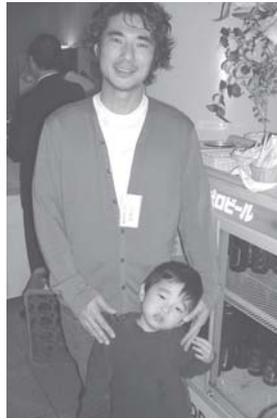


サークル・委員会仲間 お子様連れで参加!

★9期卒業生の辻平公男さんと佐藤あすかさんはめでたく昨年貴衣ちゃんをご出産。



★講師の宮崎先生。パーティーは初めてですが参加者の多さにはびっくり。「5年後が楽しみですね」



★2期生塩川さん(旧姓:島宮さん)のお子さん詩人(まきと)君3歳。



★昨年卒業したばかりの伊藤さん、吉本さん、上村さん、長谷川さん。

4人出会うのは卒業以来だそうですね。仕事が大変で、会いにくいかも知れませんが、これからも毎年この場を再開の場としてもらいたいと思います。



★8期の経済学部のみなさん。クラスが一緒だったというのがきっかけです。誰かの結婚式には必ず集まるという仲の良さ。一人は明海大学職員として奮闘中です。



★11期学園祭実行委員会のみなさん。嶋本さん、小溝さん、近藤さん、上原さん、関口さん。



★今回最多参加と思われるエスプラネード卒業生。20人以上が参加しています。5期から10期までと卒業生同士のつながりがとても強いですね。来年以降はこういった参加者のみなさんにも賞をあげたいと思います。





同窓会より 団体を表彰！

今年、浦安キャンパス開設15年という節目の年。そこで、開設時の1988年に設立され、15周年を迎えた各部の現部長と顧問の先生を招待し、表彰状を贈呈した。

表彰団体

E. S. S. / 空手道部 / 極真空手部 / 軽音楽部
アリーナ / ゴルフ部 / サッカー部 / 茶道部
情報処理研究部 / 水泳部 / トライアスロン
・自転車部 / バレーボール部 / ヨット部
/ ラグビー部 / 陸上競技部 /



同窓生からのたより

入員雅史(98年・英米語学科卒業)

1994年度の明海大学のパンフレットを見て心が躍った。

そこには決して、キレイなお姉さんがたくさん写っているわけではなかったのだが、写真を見るだけで期待に胸が膨らんでしまうような、それはそれは美しいキャンパスの風景というものが、英語のナレーションとともに誌面に展開されているのだった。

東京湾まで歩いて行ける、また東京ディズニーランドの隣駅というロケーション。モダンなシティホテルを思わせる各棟の外壁。いかにも大学的な半円形の野外ステージとその周りに張り巡らされたデッキ。ガラス張りで冬は暖かく夏は暑そうな学生ホール。トロピカルムードを醸し出す25mプール。ミキサーやモーターを備えた本格的なAVスタジオ。そして講堂も斬新に映った。プラスチックを多用した机や椅子が並び、気密性の高そうな黒縁の窓はスライド式とチルト式の混合。ブラインドはリモート操作によって電動で上下動。黒板まで電動で動くというではないか。さすが新しい大学だけある。

まだ受験もしないうちから、このパンフを見ていただけで、行きたくなくなった。大学というのは、どんな教授がいて、どんなカリキュラムなのか、どんな気質の学生が集まっているのか、ということも大事だが、それよりもまず、周囲の環境も含めたキャンパスのムードというのが非常に大きなファクターとなる(少なくとも

とも私にとってはそうだった)。その意味で、明海大学浦安キャンパスは受験生を惹きつけるだけの魅力を充分すぎるほど放っていた(と個人的には思った)。

小学校、中学校、高校、大学とひとり学校を経験してきた中で、入学前に「行きたい」と思ったのはこの明海大が初めてだ。かくして私は、第2希望だったK大学をほとんど眼中から払いのけて、ひと冬に2回も明海を受験し(一次募集と二次募集)、晴れて合格、運転免許証よりも分厚いハイテク学生証を手にすることなつた。ちなみに一次募集のあと二次募集にも応募しなければならなかったのは、事務手続き上の手違いか私自身の学力不足が原因と思われる。

さて、ささやかな紆余曲折を経て入学した明海大で、自分が何をしたかと振り返ってみた。黙々と講義を聞いている学問的な姿と、メイカイクラブのトロピカルプールでわしわしとトレーニングに励む体育会的な姿が浮かんできた。アルバイトはあまりしなかつたので、営業スマイルで接客する社会的な姿は浮かんでこない。

私は入学の約1ヶ月後、英米語学科生であると同時に水泳部員という重要な肩書きを持つようになっていた。このことがその後の4年間の人生を決めた。

少なくとも文系の学生にとって、「授業・部活(サークル)・バイト」というのは

標準的な学生生活3点セットといえると思うが、私の場合は標準学生がアルバイトあるいは自主的学間に費やす時間をほぼ水泳のために使い、2点集中型の学生生活を送った。もともと、色々なことを同時並行的に処理することが苦手だったので自然とこうなつたのだが、今考えてみると、問題点はあるにしろ当時の自分としては悪くない生き方をしたと思う。

水泳部に入ったのは、ちよつと歯の浮くような言い方でいやなのだが、自分を変えたいという理由からだつた。高校まで部活と無縁の生活を送つてきて、病的といえるほど内向的な自分に、嫌悪感を通り越して危機感を抱いており、大学がその自分を変える最後のチャンスだと思つた。このまま大学4年間も学問一点張りで通過してしまつたら、社会に放り出されたときにやっていけない。そこで、いっそ体育会の環境に自分を放り込んでしまおうと思ひ立つたのだ。なぜ水泳を選んだかといえば、「できそうだったから」。幼稚園から小学校時代、5、6年間スイミングスクールに通つた経験があり、体育会の部の中で水泳部がいちばん適応しやすそうだった。

結論を言うと、これは正解であつた。部にとつてどうだつたかは分からないが、自分にとつては良い選択だつた。伝統校によくあるガチガチの上下関係などもなく、あつけらんとして、それでいて皆、個人的で、どんなに怪しいキャラクターでも受け入れてしまうほどの包容力があつた。そのため、水泳部には毎年、ひとクセもふたクセもある人間ばかりが入つてきた。クセのない人間は、入つてもしばらくするとたいいやめていった。逆

に、こういうクセの寄り集まつたような集団だつたから、こんな自分でも4年間いられたのだろうと思う。

で、その4年間の結果としては、内向的な性格はやはり内向的なままで、自分を根本から変革するには至らなかつたが、それでも高校時代から考えると成長したなど思える程度には改善した(と、自分では認識している)。その点では、まあまあ成果があつたと思う。また、自分で目標を立て、それに向かつて粘り強く努力するというこの大変さや楽しさ、達成したときの喜びも経験できた。泳力そのものは、他人に自慢できるレベルまで到達したわけではないが、自分で納得できる結果を出すことができたし、そのプロセスは自分にとって貴重な経験になつたと思う。そして何より、この部に入らなければ絶対に味わえなかつたであろう奇異珍妙濃厚の集団活動は、強烈な「学生時代の思い出」として自分の中に焼き付いた。やはり水泳部員であるということは、大学生の私にとって非常に重要な意味を持つていたので。

一方、自身の学生生活をちよつとマジメに、かつマクロに見直してみると、やはり「社会人」に向けての準備が足りなかつたなあと反省するのである。確かに大学ならではの新しい経験をして、それはそれなりに自己成長にもつながつたが、社会的経験や専門的技能的習得というもの、もっと真剣に検討するべきだつたと思う。社会に出て即、使える力を身につけておくことが、大学生生活でいちばん大切なことのような気がする。しかしこういうことは、社会に出てしまつてから実感するものなのだ。

就職支援セミナー

「パネラーからの 力強い激励する言葉も」

担当 伊藤 大典



航空関係

2003年6月28日土曜日、小雨の降る中、今年で2回目となる3年生のための就職支援セミナーを学内大講義室で行いました。

このセミナーでは卒業生だからこそ出来る、飾らない生の声を学生に伝えていくことを目的としており、今回もメーカー・サービス・公務員等、様々な業種で活躍する9名の本学卒業生をパネラーに迎え開催されました。



公務員関係

会にはパネラー間でのパネルディスカッションと業種ごとに分かれて学生とパネラーが質疑応答を行うグループディスカッションの2部構成で約2時間に行われて行われました。前半のパネルディスカッションではパネラーの就職活動時の話や現在の仕事・会社について語られ、学生へのエールをもって締めくくられ、後半のグループディスカッションでは少人数に分かれ、学生からの質問に対する



銀行関係

この日はあいにくの天候と土曜日で学生が足を運びにくいという状況にも関わらず、事前のDMによる開催告知送付と全面的に協力してくださった学事課(就職支援)からの告知によって前回を上回る40名弱の参加者を集めることができました。



答えだけにとどまらず、パネラーからの力強い激励の言葉も聞こえてきました。

私自身、前回・今回ともにこの企画に携わり、卒業してもなお母校への熱い情熱をもって参加してくれるパネラーの方々に頼もしく思いつつ、就職へ漠然とした不安を抱えていた学生達が「参考になった」「また機会があれば参加したい」という声を聞くにつけ、最大限の喜びを感じるとともに同窓会として更なる大学・学生に対する貢献策を模索していかなくては、と感じております。



代議員・ 理事募集について

明海大学浦安キャンパス同窓会では、代議員・理事をそれぞれ若干名募集しています。

代議員は年一回の代議員会に出席し、同窓会活動の精査をしていただきます。理事は年数回の会議に出席し、同窓会の執行をお願いしています。

それぞれ興味のある方は事務局までご連絡ください。

各種証明書の 手続きについて

就職や留学等で必要になる成績証明書、卒業証明書、在学期間証明書等は明海大学浦安キャンパス学事課教務担当にて発行しています。申請から発行までは最短で二日かかります。証明書の種類や英文・和文かによって手数料が異なる場合があります。また、郵送でも受付しておりますが必ず本人確認が必要ですので詳しくは直接窓口にご連絡ください。

(教務直通047-350-4993)

住所変更等は 事務局までご連絡を

ご自身の連絡先に変更があった場合や音信不通になっていた友だちの連絡先などが分かった場合は、事務局までご連絡ください。

TEL 047-355-5112
FAX 047-355-2871
メール dosokai2@taurus.meikai.ac.jp

毎年ありがとうございます！



毎年お世話になっている宿泊先「アルパイン」の横田支配人ご家族もご招待しました。奥様の誕生日をみんなでお祝いし、バースデイケーキをプレゼントしました。

「新たな試みを探している学友会会長」「大学の活気を探している熱血教員」「学生の支援事業を探している同窓会役員」の3人が、「修学旅行的なイベントで学生生活の楽しみと思いつくり」というコンセプトを打ち出し、10年前にスキーツアーがスタートした。当時を振り返り杉浦先生は「自分が学んでいる大学に誇りを持ってもらいたい。そのためにはまず大学に足を向けて欲しい」と思い、自分が担当しているスポーツで何か出来ないかと考え企画しました。当時は、どの大学でもスキーツアーを開催すれば100名ぐらいはすぐに集まる時代でした。しかし、募集をしてみたところ3名しか集まりませんでした。それも私が教えている学生『企画はいいが、企画倒れだ』と思いついてインストラクターを頼んでいた自分の同級生や先輩に断りの連絡をいれると、先輩は『すばらしい企画だからやりましょう』と。しかし、無理は

今年で10周年を迎えた

スキーツアー

「あの言葉がなかったら10回も続いていなかった」と杉浦先生。

2月5日(木)新潟県湯沢町岩原スキー場で、スキーツアー10周年記念セレモニーが行われた。



▲アルパイン



▲ガーデンクレス

「新たな試みを探している学友会会長」「大学の活気を探している熱血教員」「学生の支援事業を探している同窓会役員」の3人が、「修学旅行的なイベントで学生生活の楽しみと思いつくり」というコンセプトを打ち出し、10年前にスキーツアーがスタートした。当時を振り返り杉浦先生は「自分が学んでいる大学に誇りを持ってもらいたい。そのためにはまず大学に足を向けて欲しい」と思い、自分が担当しているスポーツで何か出来ないかと考え企画しました。当時は、どの大学でもスキーツアーを開催すれば100名ぐらいはすぐに集まる時代でした。しかし、募集をしてみたところ3名しか集まりませんでした。それも私が教えている学生『企画はいいが、企画倒れだ』と思いついてインストラクターを頼んでいた自分の同級生や先輩に断りの連絡をいれると、先輩は『すばらしい企画だからやりましょう』と。しかし、無理は

させたくないので再度連絡をとると『ポランティアでやりますよ』といつてくれ、とても勇気づけられました。その言葉に後押しされ再募集したところ、最低慣行人数の40名が集まり1回目を開催することになりました」と話してくれました。2年目の開催は不安でいっぱいだったそうだが、評判を呼び募集開始早々完売。杉浦先生は「後輩の言葉がなかったら10回目どころか、1回目も迎えていなかった。今ではスキーツアーで学んだ同窓生が現役学生を指導するなど、先輩の面倒をよくみています。このような交流を通じて参加者が大学を好きになり、大学を盛り上げていければいいと思います」。この10年間で参加した学生は622名。スタッフ141名。指導員83名の合計846名に達している。来年の11回目は名称を変更し、新たにスタートしようとの案もでている。

同窓会の北原理事は「学生が運営、同窓会は資金サポート、教育後援会は宿泊に関するサポート、指導と監督を教員や事務局という具合に、大学を構成するさ



▲同窓生の皆さん



▲最後のひと滑りにいきます！

さまざまな組織を絡めて形づくり、大学公式行事の枠以外でスタートしているのは、スキーツアーの特徴といえます。学生時代にスタッフだった同窓生が実技指導員として参加することによって人的な継続も図られており、そういう意味で同窓会の学生支援事業の柱となっています」と笑顔で話してくれた。



▲アルパイン前のゲレンデ

楽しんでます！



地区連絡会設立まで

現在、関東地区では同窓生同士のコミュニケーションの場として、毎年同窓会パーティを開催しています（参加数約300人）。しかし、当然のことながら参加者はどうしても首都圏に在住する卒業生の参加が中心となつてしまっています。そのため日本各地にいる同窓生には参加しにくい状況となつております。

そこで私たち同窓会は、そのような皆様に同様の場を提供するとともに、将来の地域・異業種等のコミュニティや支部設立の礎とすることを目的に、全国主要都市にて連絡会というものを設立していきたいと考えています。現在、その土台づくりとして各地で同窓会パーティを開催しつつ、連絡会設立の準備をしております。

次回の地区連絡会と、今後の地区連絡会のためのアンケートご協力をお願い

今回の静岡地区での経験をさらに伸ばすために、次回、北陸地域（新潟）での開催を2月28日に予定しております。

来年度以降も順次エリアを選定しつつ、実施していこうと考えておりますが、同窓会に届けられている住所は東京でも勤務地は大阪など、同窓会でも把握してきれいな情報があります。そこで、卒業生の皆様にアンケートにご協力いただき、返信いただいたエリアに該当する方へも、十分な告知ができるようサービスの向上につなげたいと考えております。

今回の会報に同封されているはがきに最寄のターミナル駅や都市の名前を3箇所ほど挙げて、はがきでご返信ください。

ご協力よろしく願いいたします。

静岡地区会レポート

同窓会初のイベントとして、去る2003年11月22日に静岡地区会が実施されました。当日は卒業期も学科もバラバラの6名の方が参加されましたが、同窓会理事会からの挨拶／大学の最新情報のレポートから始まり、和気藹々とした雰囲気の中、懐かしい思い出話や、同じ地区に住む同窓生同士、お互いのビジネスやプライベートに繋がりが持てれば、など、大いに盛り上がりました。

「今後も静岡地区で地区会を行っていきたい」と、岩田保宏（経済学部3期）さんが今後の幹事に名乗りを上げて頂いたころ、あつという間に終了の時間がやってきてしまいました。

その後、2次会〜3次会〜4次会と飲

み歩かれたようで、静岡地区での卒業生の交流と連絡会の仮組織化ができ、大変価値のあるパーティとなりました。



▲フルメンバーで記念撮影

編 集 後 記

すっかり僕の近況報告になつてしまい申し訳ないと思います。つい先日まで就職活動を行って内定ももらえたのですが、上司の予定となる方から、「君には迷いがある、もう一度考えなさい」と言われ考えた末、中国への語学留学に行くことに決めました。年々拡大路線の同窓会パーティ。しかしそろそろニューマリリンズのキャパも限界かなと思います。ただ、会場を変えてしまうと学園祭を楽しむことは難しいでしょう。ということ以来、来年以降もニューマリリンズで学園祭と同窓会パーティの両方が楽しめるようにニューマリリンズを拡張することはできないのかなと思います。窓を改築してオーブンテラスを増設するとか。

5年後、10年後も集まれる大学であつてもらいたいと思います。

広報担当理事 川島信一



▲静岡地区会メンバー（左から3番目の岩田さんが新幹事）

